

第１回 沿岸部（港湾）における気候変動の影響及び適応の方向性検討委員会
議 事 概 要

日 時：平成２６年７月１６日（水）１０：００～１２：００

場 所：国土交通省 国土技術政策総合研究所３階 第二会議室

出席者：佐々木委員長、鈴木、栗山、下迫、平山、中川、加藤各委員他

１．主な議事

○事務局より検討の背景、港湾分野における影響等について説明するとともに検討委員会メンバーによる意見交換を行った。

２．主な意見等

【議事１】

○我が国ではＩＰＣＣのレポートが絶対的に信頼されている傾向があるが、国際的に見れば一定の不確実性を有したものであるとの意見もある。そういった中で、政府としてどの程度の確実性を考えながら対応していくのかということが大事だと思われるので、懐深く考えて欲しい。

【議事２関係】

○「海岸保全施設の更新等に合わせた地球温暖化適応策検討マニュアル」で整理されている考え方に基づいて現実の更新整備がなされているか確認してほしい。

【議事３関係】

- １００年後における経済状況と要求水準が現況と変わらないとした場合の予測結果であるという、全般的な前提条件を明示した方が良い。
- ２００４年に来襲した台風（台風０４１６号，台風０４１８号，台風０４２３号など）について、高波による構造物被害もあるのでそういった面も考慮して欲しい。
- 航路埋没を考えると、陸上からの土砂供給の変化傾向についても整理されたものがあるのであれば考慮してほしい。

【議事４関係】

- 越波に伴う伝達波はかなり大きな越波量に対してのみ有意となるため、このような越波量の発生頻度がかなり大きくなる限りは、静穏度への影響は小さいと思われる。
- 潮位上昇による影響は０．８２ｍしか検討しないのか。例えば、現実的な値を設定して検討してはどうか。
- 資産や経済価値については検討条件によって結果が変わってしまうので、金額の算定方法について、明確にしてほしい。

（以上）